

坂本さんは、これまでのいろんな大会に関わってこられた中で、地域と競技の結びつきを感じられることはあります。

坂本 府中市のまちなかりレーマラソンに参加させていただきましたが、小さい子から大人までが走っていて、ちょっとお祭り感のある大会でしたね。たくさんの方に応援にも出ていただきました。サッカーや野球は、大人と子どもでどうしても技術の差が生じてしまうと思いますが、走ることは意外と子どもが勝てる競技でもあるので、世代を超えて一緒に楽しめるスポーツだと感じていますね。



市長 森岡監督は、小さい子どもたちに教えるに行くこともあるんです。

森岡 チームとしては、3年後になでしこリーグ2部への昇格を目標に取り組んでいます。上下町の人工芝グラウンドには、ゴムチップではなく天然素材が使用されています。環境にも体にもやさしいグラウンドができるのはありがたいですね。もう一つの目標としては、連携協定先である、なでしこ部リーグのスフィード世田谷というチームに、うちで育った選手を送り出すこと、また送り出すばかりでなく、一度出ていった選手が府中へ戻ってきたときにプレーができる環境も作りたいと思っています。

市長 また市民プールについては、競泳選手を目指す人はもちろん、ジムを併設しますので、スポーツ選手から市民の皆さんまで、それぞれの目的にあった使い方をしたいと思っています。

仙田 スポーツ選手には、ジムは必ず必要ですね。安芸高田市にもジムの施設が

森岡 今は小学校1・2年生の子に、ボールを使って「走る、飛ぶ、投げる、蹴る、つかむ、打つ」の6つの動きを教えています。サッカーに限らずスポーツ全般の基本的な動きを覚えることで、ゆくゆく子どもたちがやりたいスポーツができたときの手助けとなればいいなと思っています。

市長 サンプルッチェは、サッカー教室を各地で開催されるなど、地域との関わりも大事にされていますよね。

仙田 やはり底辺が広がらないと、チームは強くないと思うんですね。ただ広島県の課題は、強い選手が県外に流出していく傾向だということ。地場の子を育成していかないと、クラブとしても人気が上がらないとは思いますが。

また、広島駅北口からすぐの場所にフットサルコートがオープンしましたが、新幹線を降りたら目の前がフットサルコートというのは、全国でも広島だけです。

充実しているクラブハウスがあります。先ほどトレーニングの話もしましたが、30代後半になった選手が現役を続けられるのは、やはりフィジカルケアができてくるからというのがありますね。

坂本 陸上選手はよくリハビリとしてプールを使いますね。走った後に午後から水泳をしたり、けがをしたときにプールの中で少し負荷をかけて歩いたり。単純に心肺機能を維持させるために泳ぐこともあります。

今後に向けて

市長 最後に今年の抱負や目標をお伺いします。

仙田 新スタジアムをきっかけにして、客席をお客様で満杯にすることは悲願ですね。まちなかスタジアムですから、県下の皆さんのシンボルにしていきたいです。

もう一つは、健全な子ども育成です。高齢化社会ではありますが、スポーツ

そういうところでもサッカーの普及活動により力を入れていこうと思っています。もちろん、今度府中市さんに人工芝グラウンドができることは素晴らしいことなので、できるだけいろんなことで提携をさせていただきたいと思っています。

市長 よろしく願います。いよいよ来年には新スタジアムが完成しますね。期待感や活用方法についてもお聞かせいただけますか。



仙田 サッカーだけでも人は来ていただけますが、この前小野市長にも来ていただいたファン感謝祭のようなイベントも開催していきます。その他にも、レストラン、シヨップなども充実させていきますが、一番大事なのはミュージアムです。

をしていた人はやはり免疫力も高まります。さらに、サッカーの楽しさや喜び、感動などを体感することによって、もう少し人生頑張ってみようかという意欲をかき立てさせることもできるかと思っています。あるいは、子どもや孫の活躍を見て、家族みんなが一層元気になっていく、そのような理想を追い求めて、引き続き頑張っていきたいと思っています。

また最近、大学のスポーツ学科などが増えているのは、これから日本が生きていくのに、スポーツが一つの大きな眼目になっているということだと思うんですね。私もサッカーを通して、いろいろな貢献をしていきたいと思っています。



ね。平和公園を設計した丹下健三さんは、平和資料館、原爆死没者慰霊碑、原爆ドームを南北の一直線にとらえ、その延長線上に、実はサッカーのできる総合運動場を想定していたんです。昭和25年、被爆の5年後ですよ。これは、広島は戦前からサッカーが最強で、全国でも優勝を重ね、サッカーによって被爆から若者たちが立ち上がることでできたということを表しているんですね。ミュージアムでは、この勇気の歴史を展示していきたいと思っています。また、お客様には、平和公園や原爆ドームだけで終結することなく、スタジアムにもお越しいただき、この場所が復興を象徴する平和のシンボルであるということを知っていただくとともに、試合のある日には響きわたる歓声と拍手を、また試合のない日にも多くの楽しみを創造できると、そんな体験をぜひしていただきたいですね。スタジアムは、観客席から一番近いところで8メートルのところにピッチがあります。

ので、迫力満点のプレーがご堪能いただけます。さらに、大型映像装置、デジタルを駆使した、これまでの日本のサッカースタジアムにないさまざまな演出が会場を盛り上げますので、ぜひご来場いただければと思います。

人工芝グラウンド・市民プールの建設

市長 府中市でも、いよいよ今年の4月に、上下町に人工芝グラウンドが完成し、また再来年には、府中駅南側に市民プールを作る計画を進めております。もちろん、これらの施設ができておしまいでなく、まちの賑わいの創出や市民の皆さんの健康増進などにもつながっていくように、皆さんのご意見を聞かせていただきながら取り組みを進めていきたいと思っています。森岡監督が率いる「スフィード備後府中FC」の拠点となりますが、人工芝グラウンドを使ったチームの今後の展望をお聞かせいただけますか。

る環境であれば、可能性をさらに伸ばしていくことができると思います。指導する子どもたちが、地域で活躍している姿を見たいなと思っています。



市長 ありがとうございます。皆さんそれぞれ地域に根差した取り組みも積極的にされていることを伺いしましたが、スポーツによって地域愛などが芽生えることもあり、改めてスポーツが持つ力はすごいなと感じています。

府中市としてもスポーツの持つ可能性をまちづくりに活かし、まちや市民の皆さんに元気になっていただけるような取り組みを進めていきたいと思っています。また引き続き皆様のご指導をお願いいたします。今日はありがとうございました。